

「私を待ってる方がいる！」(2024.10.20)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

先日、かまくら館でコンサートがあり、ある曲の一節に心が捕らえられた。それは『いい日旅立ち』の「♪ああ、日本のどこかに私を待ってる人がいる♪」である。果たしてそんな人がいるのか？しかし、そんな疑念を振り払うように「私を待ってる人がいる！」と言い聞かせ、子供の頃に歌った歌を道連れに旅に出る、と歌うのである。ジーンと切なくなってきた。そして思った、「私を待ってる人がいる！」そう信じて踏み出すことって素晴らしいなあ、この旅人、待ってる人に出会ってほしいな、と。



私たちには、私を、あなたを待ってる方がおられる！イエス様である。上掲の御言葉にあるように、イエス様は「だれでもわたしのもとに来なさい」と私たちが御許に近づくのを待ってるお方である。御手を広げて待っていて下さるのである。なんと幸いなことだろう。慌ただしい一日の一瞬でもいい、「私を待ってる方がいる！」そう思い起し、御手にすべてを委ね、休ませてもらう、そんな習慣を身に着けたい。

この秋もイエス様の御手の中で休み、充電して、教会の営みに励みたい。まず10月27日の「特別礼拝と講話」である。丹波望先生がその生涯に受け取られた主の恵みの分かち合いである。そこで、ホームページや新聞折り込みが活かされるよう祈ってほしい。そして「あなたを待ってる方がいる！」こんな思いで友人・知人に案内してほしい。

また、11月3日の「召天者記念礼拝と墓前礼拝」である。今年も礼拝堂に遺影を飾り、スクリーンに投映し召天者を追悼したい。額が大きい遺影7名の額は標準サイズに更新したので、新たに加わった遺影の場所の心配は要らない。また、教会墓地の墓碑に今回は、Y兄、S兄、T姉、O兄の4名を刻銘した。左側の墓碑の刻銘部分が狭くなり、右側の墓碑を裏返して、それぞれ2名ずつ刻銘した。今後増えても心配は不要である。

私を待ってる方がいる！讚美歌を道連れに、主の御許に立ち返りましょう！